

ブランド化で相馬の魅力をもPR 「相馬ブランド」認定証交付式

「相馬ブランド」認定制度の認定証交付式は6月23日、千客万来館で開かれ、おびす



やのピリカラ青のり佃煮、おびすの青のり佃煮が認定を受けました。

同制度は、市内の優れた素材や技術を活かし、土産などに適した魅力ある加工食品を審査の上、「相馬ブランド」として認定する制度。

式で、草野清貴市観光協会会長が「相馬の青のりを使用した素晴らしい商品が認定を受けたことをとても嬉しく思います。積極的にPRしていきたい」とあいさつし、立谷市長が祝辞を述べました。

詐欺被害防止を呼び掛け 街頭啓発

街頭啓発活動は6月15日、七十七銀行相馬支店と東邦銀行相馬支店で行われ、相馬警察署員ら15人が参加しました。同活動は、詐欺被害への注意喚起を目的に、市内金融機関などで年金支給日に合わせて実施。

署員らは、キャッシュカード詐欺などの手口を解説したパンフレットなどを来店者に手渡し、詐欺被害防止を呼び掛けました。



大雨災害などに備える 市排水ポンプ車合同訓練



市排水ポンプ車の合同訓練は6月16日、福島市内の荒川河川敷で行われ、関係者約50人が参加しました。

同訓練は、国土交通省が主催し、市と市総合建設業組合が合同で参加するもので、排水ポンプ車操作のスキルアップを図ることを目的に実施。

当日は、実践を想定した資機材の設置訓練、ポンプの運転操作訓練などを行いました。市は今後、市内での排水訓練を定期的に実施し、大雨による市街地の浸水の軽減や防止に努めます。

地震被害の復旧業務に力強い支援 派遣職員着任

7月1日、令和4年福島県沖地震により被災した道路や公共施設などの復旧事業に支援いただくため、2人の派遣職員に辞令が手渡されました。

▽福島県

熊坂 秀人さん

●期間 7月1日(金)～令和5年3月31日(金)
●配属課 土木課(土木技師)

●ひとこと

県会津若松建設事務所から参りました。

相馬市の1日も早い復旧・復興を目指しがんばります。どうぞよろしくお願ひいたします。



▽福島県

矢吹 圭太さん

●期間 7月1日(金)～10月31日(月)
●配属課 建築課(建築技師)

●ひとこと

福島県庁より参りました。微力ではありますが、相馬市の早期復旧へ向け尽力してまいります。よろしくお願ひいたします。



災害や火災に備えて

防災教室・避難訓練

▽中村第一中学校

中村第一中学校防災教育講演会は6月21日、市民会館で開催され、全校生徒ら約400人が参加しました。

講演会は、生徒らの防災意識向上を目的に、東北大学災害科学国際研究所の防災士保田真理さんを講師に迎えて開催。

生徒らは、地震や津波のメカニズムのほか、災害に備えてあらかじめ自分の行動や役割を考えることの重要性などを学び、防災への理解を深めました。



▽向陽中学校



向陽中学校避難訓練は6月29日、同中学校で、全校生徒301人を対象に行われました。

訓練は、休み時間中に火災が発生したことを想定し、市内小・中学校防災担当教諭の研修と併せた公開授業形式で実施。

生徒らは、校内放送の後、冷静に階段を降りて校庭に避難し、教職員が近くにいない場合でも適切に避難経路を確認し、行動する方法を学びました。

全国大会での活躍を願うスポーツ大会出場報告

スポーツ大会出場報告は7月4日、市役所で行われ、バドミントンの全国大会に出場する大宮冬真選手（桜丘小6年）が訪れました。

大宮選手は、5月29日に開催された福島県予選で優勝し、県代表として、8月12日から熊本県で開催される第23回ダイハツABC全国小学生バドミントン大会に出場。

報告を受けた立谷市長が大宮選手に奨励金を手渡し、大宮選手は「最後まで諦めず優勝を目指してがんばります」と大会への決意を述べました。



東北大会での活躍を願う

スポーツ大会出場報告

スポーツ大会出場報告は6月13日、市役所で行われ、相馬トランポリンクラブの選手10人が訪れました。

選手らは、第42回福島県トランポリン競技選手権大会で優秀な成績をおさめ、県の推薦選手として東北大会に出場。報告を受けた福地憲司教育長は、「皆さんの成績は相馬市民の誇りです。東北大会での輝かしい成績を期待しています」と選手らを激励し、奨励金を手渡しました。



中学生が花植えボランティア

福島県道路美化運動

福島県道路美化運動の花植えボランティアは6月18日、尾浜地区で行われ、地区住民と中村第二中学校の生徒ら約60人が参加しました。

植えられた花の苗は、道路環境美化のため、県から各公民館に配布されたもの。

参加者らは、東部公民館に配布された2、240本の花の苗（サルビア、マリーゴールド）を県道相馬亘理線沿いに植えました。



日本ユニセフ協会から感謝状

市ウクライナ人道支援募金

公益財団法人日本ユニセフ協会による感謝状贈呈は6月



29日、市役所で行われ、佐藤一夫福島県ユニセフ協会常務理事から阿部勝弘副市長に感謝状が手渡されました。

感謝状は、市が5月6日に市ウクライナ人道支援募金として同協会に寄付を行ったことに對するもの。

阿部副市長は「感謝状をありがとうございます。市民の皆さんの思いを、ウクライナの子どもたちのために役立てていただければと思います」と述べました

スポーツで心と体を元気に

市民体育祭総合開会式

市民体育祭の総合開会式は6月26日、相馬こどもドームで開かれ、13種目の代表ら約60人が出席しました。

式で、阿部孝志市体育協会会長が「スポーツを通して市民を元気づけていきましよう」とあいさつ。

体育功労者などへの表彰に続き、西村昌浩選手（相馬市剣道連盟）が体育祭に出場する選手を代表して宣誓をしました。



プロの指導を受ける相馬子どもオーケストラ公開レッスン



相馬子どもオーケストラ公開レッスンは7月2日、市民会館で開催され、教室生7人が参加しました。

同レッスンは、一般社団法人エル・システムジャパンが主催し、2度のグラミー賞受賞を誇るクラリネット奏者のリチャード・ストルツマンさんを講師に迎えて開催。

教室生は、リチャードさんのユーモアを交えた熱心な指導を受け、演奏技術や表現力の向上を目指して、レッスンに励みました。

パーカッションの多彩な音色を楽しむ

そうま音楽夢工房

そうま音楽夢工房第71回演奏会「パーカッションリサイタル in そうま 悪原至ウィズ・フレンズ」は6月25日、市民会館で開催され、約80人の市民らが訪れました。

出演者は、関東・中部地方を中心に活躍するパーカッション奏者の悪原至さんをはじめ、ピアノ奏者など5人。

当日は、H・アーレン作曲の「オーバー・ザ・レインボー」などが披露され、訪れた市民らはパーカッションの多彩な音色を楽しんでいました。



相馬の海と天使を描く

中二中安全通路

中村第二中学校安全通路の絵描きは7月8日～9日、同中学校で行われ、全校生徒181人が参加しました。

令和4年福島県沖地震で被災した校舎の入り口に設置している安全通路（ボックスカルバート）に絵を描き、生徒らを元気づけることを目的に開催。

参加した生徒は、画家の高岡洋介さんと一緒に型紙を使って天使や松川浦大橋などの輪郭を描き込みました。



社会を明るくする運動

▽メッセージ伝達式



令和4年度の「社会を明るくする運動」メッセージ伝達式は7月1日、市役所で行われ、関係者ら16人が参加しました。

佐藤宏相馬地区保護司会相馬支部長らが内閣総理大臣のメッセージなどを読み上げ、阿部勝弘副市長に手渡ししました。

この運動は、全ての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生に理解を深め、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動で、7月が強調月間となっています。

▽少年サッカー大会

社会を明るくする運動「少年サッカー大会」は7月2日～3日、相馬光陽サッカー場で行われ、市内外から8チームが参加しました。

同大会は、小学校低学年を対象に、8人制で実施。

選手たちは、チームの仲間とボールをつないで、試合終了のホイッスルが鳴るまで一生懸命走り、応援の保護者は選手たちのプレーに熱い声援を送っていました。



▽ふれあいお茶会

社会を明るくする運動「ふれあいお茶会」は7月10日、



振興公社振興ビル1階ロビーで行われ、約80人の市民らが訪れました。

同会は、相馬地区保護司会相馬支部の主催。

小畑強子同会副会長が「お互いに優しい気持ちで接することで、地域を明るくしましょう。本日のお茶会をゆつくりお楽しみください」とあいさつし、参加した市民らは、抹茶と和菓子を楽しみながら、くつろいだ時間を過ごしていました。

市からベストと帽子を贈呈

ちよこつとてつだう会

「ちよこつとてつだう会」ベストおよび帽子贈呈式は7月4日、市役所で行われ、同会の山田武義代表ら4人が訪れました。

同会は、高齢者などの日常生活支援を目的に令和2年4月に発足。中村西部9区の会員が地域の高齢者宅のごみ出しなどを手伝っています。

式で、立谷市長は山田代表にベストなどを手渡し、活動への期待を述べました。



各団体に協力を呼び掛け マイナンバーカード普及促進協議会

マイナンバーカード普及促進協議会設立総会は7月8日、



市民会館で開催され、行政区長ら117人が参加しました。同協議会は、市民のマイナンバーカード普及促進を目的に設立。

事務局による市のマイナンバーカード交付状況などの説明の後、立谷市長は「マイナンバー付与や行政の給付金申請簡素化などのメリットがあるため、各種団体の皆さんは、団体内での声掛けをお願いします」と普及促進への思いを述べました。